

～すべての人がスポーツによって輝ける社会の実現に研究成果を活かそう～

本研究科では、最新のスポーツ科学の研究手法を駆使し、大学院生一人ひとりが自然科学分野または人文・社会科学分野の課題に挑戦し、その解決を図る高度専門職業人の育成を目指しています。こうした人材は2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機として高まる「健康で豊かなスポーツライフ」、すなわちスポーツを通じた一人ひとりのウェルビーイングの実現に必要な人材です。また、ハラスメントのないスポーツ界の構築や、スポーツを通じた共生社会の実現は、スポーツ基本法に込められた理念であり、本研究科がこれまでも、そしてこれからも追求していく目標です。研究を通じて性別、年齢、障害の有無にかかわらず、すべての人がスポーツによって輝ける社会の実現と一緒に挑戦してみませんか。

スポーツ科学研究科 研究科長 藤田 紀昭

修了後の進路

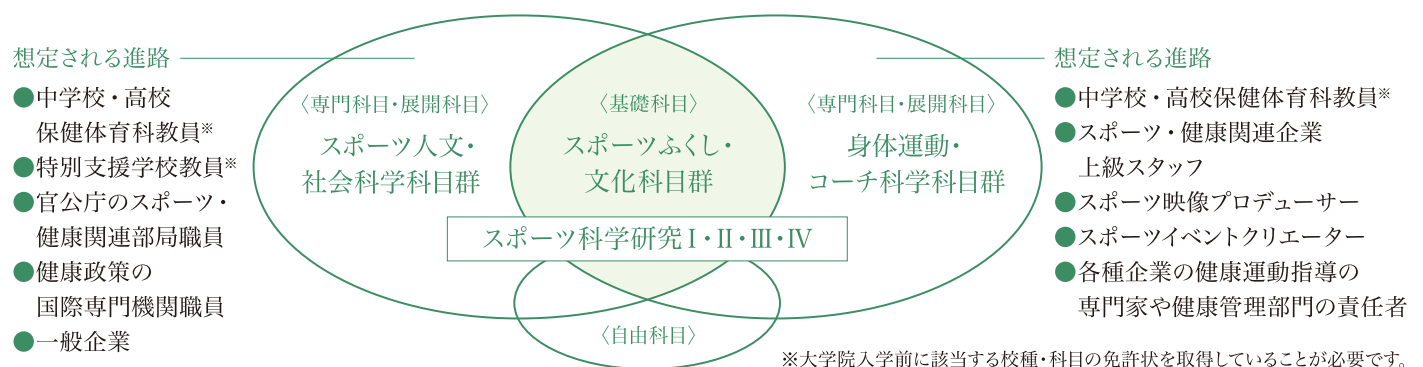
- (1) スポーツ関連組織のスタッフ：競技スポーツの指導者と、それを支えるスポーツ科学センター等の研究員や医・科学サポートスタッフ、国内外の各種競技団体スタッフ、スポーツクラブのエグゼクティブマネージャー、専門的知識を備えたアスリート等
- (2) 教育職：中学校・高等学校保健体育科教員※、特別支援学校教員、特別支援学級教員※
- (3) 行政職：官公庁のスポーツ・健康関連部局の職員、健康政策の国際専門機関職員等
- (4) 一般企業：①スポーツクラブ等スポーツを直接的に扱う企業（スポーツ・健康・フィットネス関連企業等）の上級スタッフ、研究開発職等 ②スポーツを間接的に扱う企業の上級スタッフ（メディア産業の基幹要員、スポーツ映像プロデューサー、スポーツイベントクリエイター等） ③スポーツに関連のない企業の健康運動指導の専門家、健康管理部門等の責任者等
- (5) 研究職としての研鑽を積むために他大学院の後期課程への進学等

※大学院入学前に該当する校種・科目の免許状を取得している必要があります。

教育課程

基礎科目は「スポーツふくし・文化科目群」によって編成し、関連する科目を、専門科目と展開科目に配置し、それらを補完する自由科目で構成しています。

修士論文は「スポーツ科学研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」によって完成させる構造となっています。



Sports Lab SALTO

～研究を支える充実の学修環境～

移動路が完全バリアフリー設計の学習施設「スポーツラボ・サルto」には各種実験室をはじめ、バスケットボール公式コート3面がとれる演習室、25m×6コースのメインプールと水深可変（0～120cm）のサブプール20m×2コースを備えた屋内温水プールなどを完備。高度な演習・研究に応えます。

